



横浜市開港記念会館
1917年(大正6)に開港記念横浜会館として建築された。地震に備え、レンガの壁体に鉄骨を埋め込み、関東大震災にも耐えたが、太平洋戦争の空襲で被災。失われたドーム屋根は1989年(平成元)に復元された。塔はジャックと呼ばれている。
[1917年建築/設計 福田重義、山田七五郎、佐藤四郎] 国重要文化財

CONTENTS

- 01 日本のまちかど
幕末から明治へ
時代を切り開いた 横濱
日本の近代が育まれた
歴史的都心 関内
- 05 特集対談 **Think Now** 第6回
人が育む国際都市 横浜
市民との共感 そして信頼
横浜市長 林 文子
フリーアナウンサー 渡辺 真理
- 11 つくり出そう環境の最先進国 日本
[連載 第2回]
課題先進国「日本」が果たすべき役割
遠からず都市は「鉱山」になるだろう
—— 普及型需要から創造型需要へ
三菱総合研究所理事長
東京大学総長顧問(前総長) 小宮山 宏
- 13 *Town Scope* タウンスコープ 第6回
筑波山と清流 田んぼと茅葺き屋根 —
日本の原風景 石岡の人々と暮らし
落語家 林家 たい平
- 15 The **ひと** 世界に羽ばたく日本の若者
第2回
世界の舞台で
スタンディング・オベーション
早稲田大学交響楽団
- 17 URのしごと
横浜山下町地区
(神奈川県横浜市)
先駆的な高齢者支援の
取り組み
- 21 URからのお知らせ
- 22 編集後記

日本のまちかど

幕末から明治へ 時代を切り開いた 横濱

日本の近代が育まれた歴史的都心 関内

1858年(安政5)アメリカと江戸幕府によって日米修好通商条約が結ばれ、アメリカからは將軍のお膝元である品川が開港場として求められました。幕府はこれを退け、東海道の新奈川、さらに南の横浜村を開港場としました。当時激しかった攘夷活動をなんとか避けようとしたのです。そして江戸湾の海上に堆積した砂嘴を活用して、貿易施設や外国人の居留地を造成し、翌年開港しました。新奈川宿には奉行所や各国公館を置き、横濱道をつくり、居留地の入口の吉田橋の畔に関所を設けます。これが関内、関外の呼称のはじまりとなりました。

この吉田橋から居留地を通り、海岸の旧灯台局あたりへと至る道が、1867年(慶応3)にできた「馬車道」です。これまでの歩行だけの道に比べ、車道と歩道が分けられた欧風の道路で、1872年(明治5)にはガス灯もつけられました。来日したイギリスの女性旅行家イザベラ・バードは、「街路は狭いが、しっかりと舗装されており、よくできている歩道には縁石、溝がついている。ガス灯と外国商店がずらりと立ち並ぶ大通りを過ぎて……と自身の紀行の中で書いています。また吉田橋傍ら

※1 砂嘴：沿岸流により運ばれた堆積物が堆積して形成される嘴(くちばし)形の地形
※2 イザベラバード：1839年、イギリス生まれ。女性旅行家・紀行作家。世界各地を旅し、日本には明治時代に訪れ、東京を起点に北日本、関西などを旅しその旅行記を書いた。